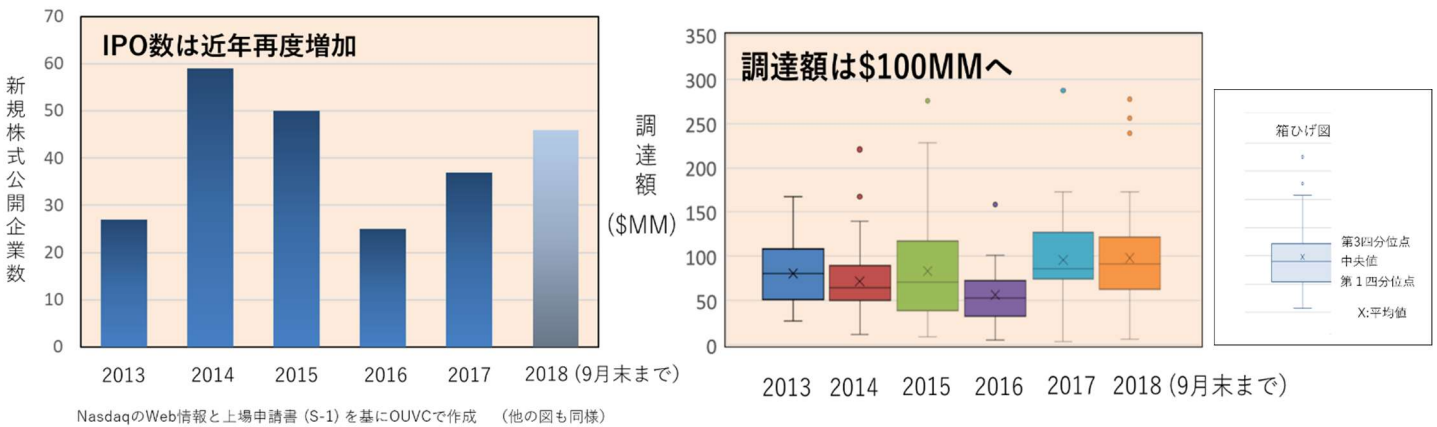


再び増加へ 創薬ベンチャーのIPO: Nasdaqでのトレンド

創薬ベンチャーの新規株式公開 (IPO) 市場から見ると製薬業界の新たな一面が見える。創薬を取り巻く環境がより厳しくなる中で、IPO 数は近年増加している。特に、遺伝子治療や細胞治療などの全く新しい治療技術を開拓した企業が IPO 市場でも存在感を増している。高額な資金調達で開発に一層の弾みが付く展開になって来た。

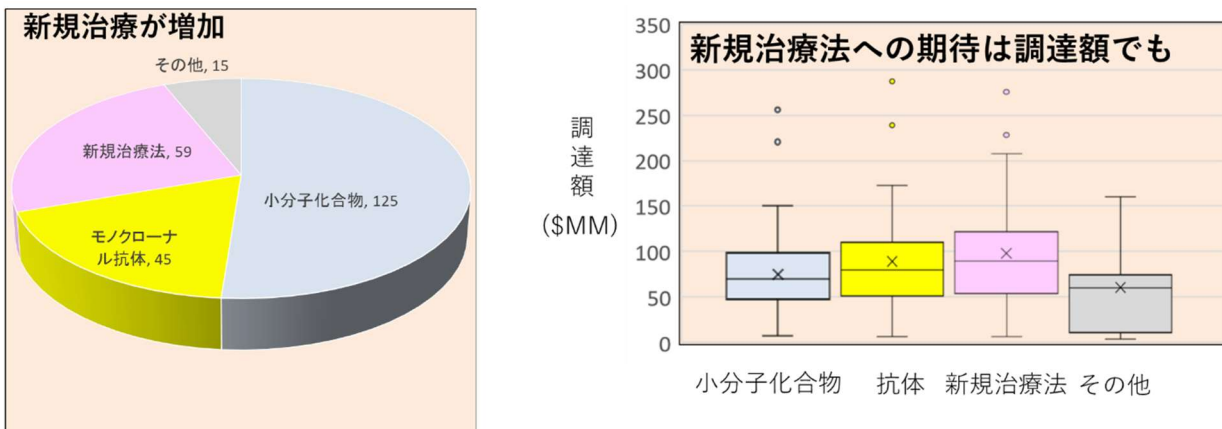
2013年1月から2018年9月末までにNasdaqに新規株式公開 (IPO) した創薬ベンチャーの数は、2014年が最も多く59社、2016年は最小で25社、合計で244社である。2018年は9月末の時点で過去2年よりも多く、年末までに2013年と肩を並べる勢いである。(左下グラフ)

これらの企業が調達した額の推移を示したのが右下の図。中央値で見ると、2016年が52.8\$MMで最小となり、2017年と2018年はそれぞれ、96.1と98.1\$MMだった。2016年と比較すると約2倍の額に達している。創薬ベンチャーのIPOは数、調達額ともに増加の傾向が鮮明だ。



モダリティ別の企業数を見たものが左下の図。小分子化合物を主要な技術としているのは125社で、全体の51%である。モノクローナル抗体は45社。これら従来の技術をモダリティとする企業は全体の約70%である。遺伝子治療や細胞療法などの新規のモダリティが59社あり、モノクローナル抗体よりも数が増えている。モダリティ別の調達額では、新規医療に取り組む企業が最も高額となっている。

比較的好調な米国経済を背景として、Nasdaqではベンチャー企業が再び成長するトレンドにある。全く新しい治療法を開発した企業がこの新たな流れを牽引しているようだ。



[OUVC 投資部第三グループ調査役 西角文夫(Ph.D.)]